



社会福祉法人

るうてるホーム 法人報

聖書の教えに従って
お客様を敬い、
お仕える

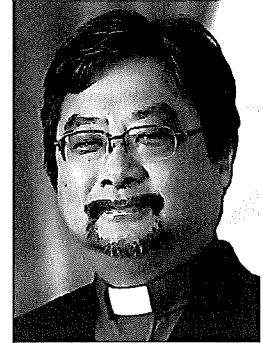
新しい理事会の態勢について

1965年4月30日に軽費老人ホームとしてこのるうてるホームは始まりました。先日の5月27日には創立54周年の記念の礼拝を守りました。この54年間、初代施設長の泉亮・洋子ご夫妻をはじめ、多くの方々の祈りとお支えとご奉仕とがあってそのバトンは脈々と継承されてきたのです。

昨年から今年にかけて長く理事・監事を務めてくださった四名の方々がその任を満了されました。水野登美子氏と永吉秀人牧師が理事として、古屋四朗氏（日本福音ルーテル社団常務理事）と五十嵐利光氏（東京老人ホーム常務理事）が監事としての任を終えてくださいました。これまでのご尽力に心からの感謝を捧げたいと思います。特に水野登美子さんはホーム創設前からこのホームに関わり、献身的にホームを支えてきて下さいました。内海季秋牧師、宝珠山幸郎牧師に続き2000年に第三代後援会長となられてから15年間、貴い献金を捧げてくださる方々お一人おひとりに心のこもった直筆の礼状を送り続けてくださったのでした。永吉先生も天王寺教会の牧師として21年間、陰となり日向となってチャプレン団の一員としてこのホームをお支え下さいました。ありがとうございました。

昨年6月からは佐々木勝一氏（神戸女子大学教授）と田中健治氏（税理士）というお二人が監事としての任を引き受けて下さっています。またこの6月からは新しく理事として秋山仁牧師（豊中教会 / ディアコニアセンター喜望の家）と森本典子氏（デンマークディアコニッセ事業団ディーコン / 関西学院大学講師）が理事会に加わって下さいました。秋山先生は6年間ドイツでアルコールセラピストとしての訓練と資格を得て帰国された方ですし、森本さんはデンマークと深い関わりを持ったディアコニアの専門家でもあります。天の配剤によって昨秋のドイツ・ブラウンシュヴァイク訪問旅行でお二人とはご一緒させていただきました。お二人がそれぞれ培ってこられたグローバルなネットワークと実践的な現場体験を通して、大いにこのホームのために貢献していただけるものと期待しています。

るうてるホームも55年目を迎えて新しい態勢が整えられています。2000年から活動を積み重ねてきた訪問看護ステーションの働きはこの3月で終了いたしました。地域のニーズに今後さらによりよく応えてゆくための「外的奉仕のための内的集中」の時としてこれを捉えたいと考えています。パウロは言っています。「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です」（1コリント3:6-7）。神さまがこのるうてるホームを用いてその豊かな愛の御業を実現し続けてくださいますよう祈りと智慧と力を合わせてまいりたいと思います。今後ともご支援をよろしく願いいたします。



理事長
大柴 讓治

2018 年度事業報告・決算と 2019 年度事業計画

常務理事 石倉 智史

2018 年度は、中期経営計画の折り返しの年として、十分な取り組みができていない課題に対して検証を行ってきました。明確なキャリアパスの構築やメンタルヘルスケアの対応としてはいくらか課題が残ったものの、人材育成と職場環境の整備は年々少しずつではありますが、改善されつつあります。

各委員会活動を中心として、部署や立場を超えたコミュニケーションやイベントの企画は日常業務とは離れた環境において新たなモチベーションに繋がっています。ノー残業デイの設定や有給休暇の取得促進においても事業部内での協力体制が整ってきました。まだまだ組織的な体制整備には課題も多く、これからの幹部候補育成に繋げる下地作りの段階と言えます。

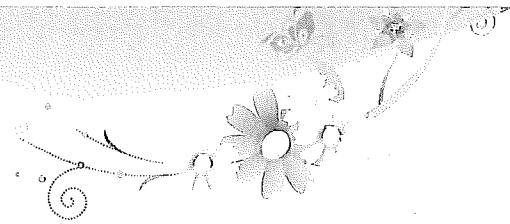
事業推進面では、昨年度のケアハウスに続き、デイサービスが第三者評価を受審しました。選ばれる事業を目指し、掘り起こされた課題に取り組むきっかけとしました。そのような中、約 20 年間続けてきた訪問看護事業を人員不足により事業継続が困難となったことで 18 年度末をもって事業廃止に至ったことは、非常に残念な事でした。

その他のトピックスとしては、ルーテル教会の企画によりドイツ・ブラウンシュヴァイク福音ルーテル領邦教会宣教パートナー関係 50 周年記念「公式訪問団」へ 2 名の職員を参加させました。るうてるホームとして久しぶりの海外研修となり、よい学びの時となりました。また外部の相談支援機関との連携による緊急対応が必要とされる高齢者の一時利用や若者の社会的活動場所の提供など、社会貢献としての活動にも積極的に対応しました。

2019 年度は次期中・長期経営計画の骨子について検討をはじめます。事業を取り巻く環境で、とりわけ人材確保については、非常に厳しい状況が続いています。安心して働き続けられる職場環境の向上を最重要課題として取り組みつつ、人材確保や顧客獲得へ向けて積極的な提案や活動を行うために、新たに広報委員会を立ち上げます。

同時に働きがいがあり働き続けたい職場となれるよう、時間外労働の削減目標の設定、業務省力化や介護負担軽減に向けた機器の導入をすすめ、新しい給与体系や研修体系などの再構築とともに環境整備を行っていきます。

また最近多発する自然災害や南海トラフ大地震に備えるため、18 年度から 5 か年計画で自家発電設備や非常時電源確保、照明等の設備整備を行っています。入居者への安心のためである一方、有事には福祉避難所として機能させるため、日頃からの備えを大切にしていきたいと考えています。



2018年度決算概況

(2019年3月31日現在)

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	355,998	流動負債	73,899
現金預金	273,665	事業未払金	22,587
事業未収金	80,071	短期設備資金借入金	51,312
立替金	1,030	預り金	0
前払費用	1,232	前受金等	0
		固定負債	1,208,367
		設備資金借入金	1,170,788
		退職給与引当金	37,579
固定資産	2,038,098	負債の部合計	1,282,266
基本財産	1,459,036	純資産の部	
土地	534,814	基本金	815,533
建物	924,222	国庫補助金等特別積立金	296,179
その他の固定資産	579,062	その他の積立金	180,616
建物付属設備・構築物	240,339	次期繰越活動増減差額	△ 180,498
車両運搬・器具備品等	18,828	(うち当期活動増減差額)	△ 13,622
投資有価証券	100,000		
積立資産等	218,235		
その他の固定資産	1,660	純資産合計	1,111,830
資産の部合計	2,394,096	負債及び純資産の部合計	2,394,096

事業活動計算書の要旨

資金収支計算書の要旨

(自)2018年4月1日 (至)2019年3月31日

(単位:千円)

科目		金額	科目		金額
サービス活動増減の部	介護保険収益	453,830	介護保険事業収入		453,830
	老人福祉事業収益	76,237	老人福祉事業収入		76,237
	就労支援事業収益	280	就労支援事業収益		280
	障害福祉サービス事業等収入	71,694	障害福祉サービス等事業収入		71,694
	医療事業収益	4,887	医療事業収入		4,887
	その他事業収益	675	その他事業収入		675
	寄付金収益	5,699	寄付金収入		5,699
	サービス活動収益計	613,302	受取利息		606
	人件費	429,614	その他収入		2,483
	事業費	73,568	事業活動収入計		616,391
	事務費	55,071	人件費		428,129
	就労支援事業	612	事業費		73,568
	利用者負担軽減	299	事務費		55,071
	減価償却費	70,129	就労支援事業		612
	国庫補助金積立金取崩額	△ 8,986	利用者負担軽減		299
	サービス活動費用計	620,307	支払利息		9,683
	サービス活動増減差額	△ 7,005	事業活動支出計		567,362
	サービス活動外収入	3,090	事業活動資金収支差額		49,029
	サービス活動外支出	9,747	施設整備等収入		0
	サービス活動外増減差額	△ 6,657	施設整備等支出		54,083
経常増減差額	△ 13,662	施設整備等資金収支差額		△ 54,083	
特別収益	40	その他活動収入		1,615	
特別費用	0	その他活動支出		3,123	
特別増減差額	40	その他活動資金収支差額		△ 1,508	
当期活動増減差額	△ 13,622	当期資金収支差額		△ 6,561	
前期繰越活動増減差額	△ 166,876	前期末支払資金残高		339,972	
当期末繰越活動増減差額	△ 180,498	当期末支払資金残高		333,411	
次期繰越活動増減差額	△ 180,498				

るうてるホームは、地域の方々や教会関係、事業所関係の方々など、多方面に渡って交わりのある方がたくさんおられます。本当に多くの皆様に支えられて、いまここにあるのだと実感しています。地域交流の具体的な活動としては、るうてるホームの一大イベントともなっている「るうてるフェスタ」があります。ここでは日頃から関わり



のあるボランティア、近隣の事業所の方々と一緒にイベントを作り上げ、顔の見える関係作りを進めてきました。近隣住民の方々へも開かれた施設として、良い印象を持ってもらえるように企画を重ねてきました。

次に「はっぴいカフェ」です。これは地域の高齢者の「ワシらこれからどこ行ったらええねん」という「つぶやき」から始まりました。それまで介護予防教室という期間限定の集まりが終了するタイミングでの出来事でした。教室の参加者を中心として、お友達同士



に声を掛け合って運営ボランティアを募り、地域の集いの場として今年で5年目になります。

また教会関係としては、2019年3月と5月に香港・マカオルーテル教会の教会員の方々や教会が運営をしている高齢者ケアセンターの方々が来訪され、施設の見学と利用者との交流の時を持つことができました。世界の様々な価値観を知り、言語の違う方への対応を経験させていただける貴重な体験となりました。るうてるホームを取り巻く環境はとても恵まれていると思います。様々な方々との多様な関わりを通して、まさに多文化共生が体感できるホームとなっています。これからも地域と共にあって多様性を大切に、「支えられつつ、支えて」をモットーに、皆様が必要とされるホーム（地域の家族）として成長していきたいと思えます。

後援会ご献金感謝報告

2018年4月から2019年3月までの献金総合計は、5,699,361円ございました。多額のご献金に感謝申し上げます。

今後とも皆様のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。